

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム 村伝
所在地 (県・市町村名)	宮城県気仙沼市
記入者名 (管理者)	熊谷 光二
記入日	平成 19年 8月 1日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム開設時より、独自の理念があり、入居者様支援の際に基準になるものとなっております。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、出勤者で理念を唱和しています。理念は文章化しているが全ての職員は暗記しています。日々の入居者支援の中で迷いが生じた場合でも理念を指針として、大切なことは何かを考え行動しています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの広報紙、ボランティア募集の様式などに理念を記載しています。	○ 運営推進会議の際にも理念の啓発を行っていききたいと思います。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	街中のホームということもあり、近隣の商店街の方々とも気軽に話し合うことが出来ています。入居者が自由に買い物をするので、ホーム近辺の協力マップもあります。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホーム村伝開設前は同じ場所で旅館業を営んでおり(村伝旅館)開設後も同じ名称なので、地域には解けこみやすいと思います。また、経営者が商店街や自治会の役員をしていることもあり、町内でイベントなどの行事が行われる際には声をかけていただけるなど交流は盛んです。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	7月中には3つの自治会の100歳リーダーが中心となり行われた認知症の勉強会に管理者が出席しております。	○	管理者が認知症介護指導者養成研修を修了したので、今後は認知症介護の啓発を意識して動きたいと思っております。市の健康介護課内の包括支援センターの職員に協力を求め、勉強会や説明会などを開き、認知症高齢者が地域で安心して生活できるような取り組みを行っていきたく思います。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回行われた評価で、学べた点については、即実行しています。外部評価の意義についても先日、入居者様家族がWAMnetを見たとのこと。評価内容を見て安心したという声が聞かれ、その重要性を感じました。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、参加されている民生委員の方から地域の行事など案内していただいています。実際に要望は少なく現状で満足しているとの内容の話が聞かれておりますが、今後もサービス向上の為に視野を広げて行動していきたいと感じています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実際に今回の外部評価についても、市職員からの支援もありました。サービスの質の向上において、今後についても支援をいただけると思います。	○	運営推進会議において、包括の職員よりホームの行事に参加したいという言葉頂きました。今後は支援の実際を見ていただきながら、さらに向上するためのヒントなどいただけたと思います。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は退居されましたが、地域福祉権利擁護事業のまもりぶさんを利用していただいていた入居者さんがいらっしゃいました。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム村伝では「緊急やむを得ない身体拘束に関する承諾書」を作成しており、身体拘束および虐待について、勉強会をしました。実際にもネグレクトなど言葉的なものも勉強できたと思います。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約には十分に時間を使っています。信頼関係構築を重きにおいているので、質問事項について配慮して対応しております。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実際に管理者を「事務長」と呼び苦情を話す利用者さんもおられます。不満は様々あるとおもいますが、小さいうちに個別支援を行う方向で考慮しています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	左記については、月1回発行される広報紙や支払い、面会の際などに生活の情報を家族様に話しています。私達のホームは面会や来客が多いのが特徴なので、その点では報告ができていていると感じています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場では参加した家族より要望を頂くようにしていますが、現状で満足しているとの話が多くあります。以外にも第三者の苦情窓口を重要事項説明書に記載して説明をしております。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2度行われるカンファレンス、年の契約更新、各懇談会などで意見などに耳を傾けています。職員の不満は入居者にも影響しますので、配慮しています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	実際の行事などで、職員の勤務を厚くするなど、柔軟な配慮をしています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホーム村伝は1ユニットなので異動はありません。離職については、代わる前に新しい職員が研修に入るなど、影響がないようにしています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム村伝は、数多く研修会に参加しています。地域の気仙沼・本吉地区介護サービス法人連絡協議会の研修や宮城県グループホーム連絡協議会の研修、県の実践者研修、認知症介護指導者養成研修も受講しております。OFFJT、だけではなく、月に2回行われるカンファレンスでOJTも行っています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流する機会として、気仙沼・本吉地区介護サービス法人連絡協議会の交流会があります。(ボーリング大会なども)そのほかにも独自のルートで介護員同士の懇談会で情報交換をしています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月のカンファレンス、年に1回の更新時の面接、個別支援など職員に配慮しています。声がなくなる＝ストレスと繋がってくるので、注意して対応しています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	グループホーム村伝は今年度中に新たなグループホームを開設します。介護業界の今後について、各職員も不安を感じていることもあるようですが、資格をとれる支援や研修を受講してもらうなど、向上心に配慮しています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の際に生じる、自宅からホームに変わる環境の落差などを考慮し、信頼関係を構築するために入居されるご自身と十分に話し合う時間を設けています。1度の面接は30分～1時間を目安にし、2～3回、必要に応じて行います。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受ける際に、その内容と状況にあわせ、訪問時間を合わせたり、来訪時間を合わせるなど柔軟に対応しています。相談を受ける時間についても最優先事項とし、時間の調節を行っております。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望される様々な方は、さまざま事情で対応ができなくなり相談されるケースが多いので、グループホームだけではなく、介護保険の範囲で何のサービスが合うのか思案しながら話を勧めています。以前にもホーム入居に関わらず精神科受診に同行するなどのサービスもありました。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	高齢者は突然の環境の変化に柔軟に対応できない状況があります。認知症の障がいや考慮し、なるべく負担のないように自室の環境や利用のリズムなど、その方に合わせて対応させていただいています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々職員が入居者様へ支援すると、入居者様からの「ありがとう」との笑顔があります。職員はその笑顔が意欲になり、日々の仕事が楽しいとの話があります。その他にも地元の慣わしの話や行事など教えていただき、日々の生活に活かしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などで案内を出し、一緒に過ごしていただけるように支援しています。普段の入居者様の支援では自室の環境整備など相談することがあり、利用者様を支える支援を職員と共に行っています。その他ではホーム便りが好評をいただいています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ケアプランを通して認知症の利用者を理解していただくこと。広報紙を通して表情を見ていただくこと。面会の際は自室でゆっくりすごしていただくこと。など、本人様と家族の関係に配慮しております。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	グループホーム村伝は家族以外の方(友人や親戚など)も多く来訪して下さっています。馴染みの場については、入居者様の要望に応じたところにドライブをしたり、買い物をするなどして在宅の延長で支援をしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホームに入居されている方は様々な役割(食事準備、下膳など片付け、掃除、洗濯たたみなど)を行って頂いています。その他にもレクリエーションなどで楽しみを共有、行事では父の日を女性入居者が、母の日を男性入居者が盛り上げ役になっていただきました。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域に根付いていく意味でも、認知症高齢者介護について、退居されたあとも支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホームは入居されている方々と比較的多く時間がとれる形態だと思います。日々の生活の中で傾聴し、要望を聞き取り入れるなどしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際に、ご自身、ご家族に面接して情報収集し、必要に応じ以前に使っていたサービスの担当者に会って利用の経過などをうかがうようにしています。	○	独自のバックグラウンドアセスメントシートがありますが、今後入居される方についてはセンター方式のシートを使用しようとおもっています。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様の状態はその日、その日によって違います。天気に左右されたり、買い物に行きたいと要望がある場合など、グループホーム村伝は入居者様意欲を大切に、状況に合わせて支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成していく際には、本人様が実際に困っておられること、介護への要望など実際に支援を行っている職員がセンター方式のCシートに本人様の思いを抽出し、家族様にも支援のヒントなど情報をいただきながら介護計画を作成するようにしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を作成すると、課題の部分が比較的早期解決したり、新たな課題がでてくることから、必要に応じて作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化など特記事項を設け、介護計画に反映できるようにしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者を含めると日中4名出勤しており、人員の部分で必要に応じ対応できるようになっています。外出や外泊などの突然の家族からの申し出についても柔軟に対応しております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域によって、閉鎖的な地域もあります。ただ、運営推進会議にて、地域の方の協力を得られるようになってきました。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居されると、他のサービスは限定されます。入居希望の方で連携して、他のサービスを利用することはあります。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して、地域包括支援センターの職員とかわりをもつことができました。今後も協力を仰ぎたいと思っています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームとの協力医療機関、入居前のかかりつけ医など家族支援で通院やホームが対応など、希望にあわせた受診支援を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	グループホームで働く介護従事者は日々の挨拶であったり、笑顔を大切に毎日の支援を行っています。プライバシーや誇りにたいしての配慮の部分では事業所の理念を大切にしています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	金銭面での支援、食べたいもの、外出など入居者様の希望にあわせた支援をしています。意欲低下の方にも環境で配慮するなどの支援を行っています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、外出希望にあわせて柔軟に支援しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	7月中に退職したばかりの職員が理容師であり、ホームに入居されている方の理容を行っていました。美容室の利用に関しては、隣が美容室ということもあり、希望に応じて対応しています。	○ 入居者より、慣れた人に理容してほしいとの話があるので、退職した職員が勤めている訪問美容を利用する予定である。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホーム村伝に入居されている方々は、食後ほぼ全員の方が片付けなどの役割を行っていただいています。食事の準備においても入居者様が手伝っていただいています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ホームにはお酒、たばこなど嗜好する方はおりません。自身でおやつを管理している方もいますし、ホームの1/2以上の入居者の方の自室にお菓子などの食べ物が置いてあります。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者様によって様々な排泄形態の違いがあります。排泄のリズムはその他のリズムに直接影響があるので、観察しながら対応しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	グループホーム村伝では大きく午前の10時～午後の4時頃とワクがありますが、関係なく入居者様より希望があれば早朝でも深夜でも入浴が可能です。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	今までの生活の延長が生活習慣なので、制約なくその方の生活のリズムに配慮しています。食事の時間なども基本的には自由です。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	9名入居されている方の生活歴に合わせた支援をすると、趣味などで影響され自分の趣味になる方も見られました。意欲、要望に働きかけるという意味で毎日ではありませんが、日々の生活に配慮しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホーム村伝の入居者様の1/2は自分で金銭を所持されています。所持されていない方でも支払いで手渡しなどの支援もしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は多いと思います。穏やかな日であれば、道路向かいの公園まで散歩しますし、ドライブなども日々活動にあります。買い物の要望にも柔軟に対応しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望がある場合は尊重し支援しています。外出支援はできていると思います。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	週に数回電話を使用している方がいます。その他の入居者様も家族の電話番号は持っています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	グループホーム村伝の平均来客人数は1日1.6人です。ホームが町の中にあるので、比較的訪問しやすい環境だと思います。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム村伝では「緊急やむを得ない身体拘束に関する承諾書」を作成しており、身体拘束および虐待について、勉強会をしました。実際にもネグレクトなど言葉的なものも勉強できたと思います。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	買い物好きな方が多く、外出願望の強い方がいますが鍵をかけ抑え付けるような対応はしていません。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ヒヤリ・ハット報告書が多く上がって以来、事故へのリスクマネジメントが行いやすくなりました。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬については目の届かない場所(2階)、刃物についてはインターネットでロック式のものを購入しました。利用者様が使用する際には、声をかけていただいています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員が必要と思う知識、不安と感ずるものをカンファレンスに出していただいています。疑問や不安をもったまま入居者様の支援をおこなうと事故の原因になると感じています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1度、急変や事故発生時に備え訓練をしています。	○	今後は必要に応じて、赤十字や消防署で行っている訓練にも参加してみたいと思っています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定避難訓練、地震を想定した避難訓練などを行っています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒や外出について、ホームの生活上おこりうるリスクについては入居前に家族様に説明しています。そのリスクについては個人個人重さが異なるので、抑圧感がないように配慮しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り事項に、引継ぎが重要である点については分りやすく工夫しています。出勤者同士の情報の共有という部分でも、チームワークを重視しているので、その旨対応しております。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者を含め、介護従事者は入居者様が服薬している薬の名前および作用など投薬された薬の説明書をファイルするなどして理解しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便コントロールのために、毎日のリハビリ体操などの運動と牛乳などの飲みもの、全体の水分量など配慮しています。	○	今後については、おやつなど手作りする方向で寒天など使用して排便に配慮していきたいと思います。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについては習慣の部分と必要に応じた支援を行っています。毎食後に口腔ケアをされる方、起床時、就寝時に行う方など様々なので、その方にあつた支援を考え行動しております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取に考慮が必要な方については、必要な量を飲んでいただけるように考慮しています。毎食後に摂取量、水分量など必要な情報は記録に残し、判断の指針にしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	県および国からの感染症予防のマニュアルはファイルにいつでも目の届く場所においています。感染症には注意しており、毎日、床、ドアノブ、手すり、椅子、床などの消毒も行っています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夏場に入り、2日に1回だった買い物を毎日に切り替えて新鮮なものを購入し、食材の管理をしています。まな板なども洗うだけではなく毎晩浸けて消毒し、入居者が役割で台所の手洗いをされる場合も手を消毒していただいています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホーム村伝がグループホームらしい建物ではないと他の方の話があります。ポーチに花を並べるなど来客を明るく迎えらるるよう配慮しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様にとって不快な音はないと感じています。光についても時間に合わせ、天井の照明から壁証明に証明を下げていくなどし、蛍光灯の光も白からだいたいにかえるなど心地よい環境に配慮しています。季節感については、その季節に合わせた花などを飾り生活に潤いがもてるように工夫をしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりにパーテーションを置くなどして配慮し、こたつポット雑誌などを置き落ち着ける空間作りをしています。	○	落ち着ける空間について、小上がりにロールカーテンを準備し、他の方の視線が気にならないように配慮したいと考えています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各入居者様の自室には、自宅から生活に必要で自室に入る分だけ持ち込んでいただいています。ホームでは帰宅願望の方がいないので、部屋も充実してきたのだと思います。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の際、昼食後の昼寝の際、夕食前就寝準備の際に換気を行っています。グループホーム村伝は各入居者様の居室にエアコンはないので(冷風)夜間の安眠できるように各居室についても配慮しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム村伝は適度な大きさのホームだと思います。手を伸ばせば手すりに掴まれる環境。手すりは一見手すりが見えないように自然と溶け込んだ手すりになっています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様にあった場所に目印を置く、識盲に配慮した目印をつくる。自室の場所がわかるように自室の前に大きな暖簾をかけておくなど認識しやすいように環境面での支援を行っております。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周は散歩ができる状態になっています。隣には中庭があり、適度な広さで落ち着ける場所だと思います。そこに花を植えたり、小さな畑を作ったりしています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム村伝は市街地にあるホームとして、その立地を生かした支援を心がけています。現在、利用されている方々にも入居前の生活をつづけていただけるように、自由に外出ができ買い物や散歩がおこなえるよう、職員は柔軟に配慮しています。近隣の商店さんからも、声をかけていただき入居者様も気持ちよく買い物を楽しめるようです。ホームの来客の人数が多いところもアピールしたい点として上げられます。月によっては1日平均で2名を越える月もあり、来客は比較的多いと思います。メリットとしてはお客様が情報を外から持ってきていただけるので、日々マンネリ化しないと言えます。グループホーム村伝の建物は一見認知症対応型共同生活介護施設に見えないのが自慢でそれが、良い意味でお客様が足を向けやすいということも理由の一つだと思っています。